

情報通信審議会 情報通信技術分科会 陸上無線通信委員会
第2回 V-High帯公共BB/狭帯域無線システム作業班
議事概要(案)

日時:令和6年8月7日(水) 14:30~16:00

場所:Webによる開催

主 任 : 藤井 威生
構 成 員 : 新井 勇太、大野 和俊、梶田 宗吾、檜村 聡、加藤 数衛、
川島 修、北沢 祥一、清水 良真、杉澤 洋輝、高井 峰生、
高田 佳紀、津和 隆志、中村 元、仁井田 雅俊、野尻 英行、
原田 博司、増岡 誠也、松波 聖文、瀧島 剛太(山路構成員代理)、
結城 義徳
構 成 員 補 助 : 金澤 昌幸(加藤構成員補助)、宮崎 伸介(松波構成員補助)、
迫田 和之(梶田構成員補助)
事務局(総務省) : 中川室長、福川課長補佐、今里係長、松見官

議事

- ① 前回議事概要(案)の確認
事務局が「資料2-1」及び「参考資料」に基づき説明した。
- ② 公共 BB の共用検討について
加藤構成員及び金澤構成員補助が「資料2-2」に基づき説明した。
- ③ 狭帯域 IoT 無線システムの要件整理について
加藤構成員及び金澤構成員補助が「資料2-3」に基づき、説明した。質疑等は以下のとおり。
原田構成員 : 狭帯域IoT通信システムの概要に関して、PPDU及び受信感度についてはIEEE802.15.4-2020において20種類規定があるため、今回の資料に記載されている内容は具体性に欠けている。議論を行う上で、それぞれどの規定を参照するのか明確にしてくださいようお願いしたい。なお、資料については、通信フレームフォーマットと受信感度の項目も黄色(検討中の項目を示す色)になるのではないかと考える。
金澤氏(補助) : 齟齬がないように、参照する規定を明確化したい。
原田構成員 : キャリアセンスについて、EDとSDの2つの方式についての記載がある。SD方式を採用するとなると、周波数を共有するすべてのシステムが信号検出するための回路が必要になるため、これまで他の周波数帯で採用されていない理由と考えている。なぜこのような議論になっているかが分かるよう、資料には、その当たりの問題点を明記いただき、その上で、ユースケース等を含めて検討する形にしていきたい。
事務局 : 現在検討中であるが、ED方式とSD方式の併用に関しては、その使い分けや他システムへの影響も勘案しながら整理してい

く必要があると考えており、いただいた点も踏まえ、引き続き、関係者間で検討を進める。

新井構成員 : 現在検討が行われている関係者打合せは狭帯域IoTの要件に係るもので、別途、放送関係システムとの共用検討に係るアドホックグループの会合が実施されるという理解でよいか。

事務局 : そのとおり。当初のスケジュールから遅れている状況であるが、他システムとの共用検討を行う上で必要な部分を早めに整理し、各システムとの共用検討に係るアドホックグループの会合を実施したい。

新井構成員 : 承知した。当初のスケジュールに固執せず、検討状況をみながら、慎重に検討いただきたい。

④ その他

事務局が、今後のスケジュールについて説明した。

(閉会)